にじいろ通信

令和7年　12月号

キッズケア青い鳥のWEB予約と事前登録はこちらから

インフルエンザ治療薬

インフルエンザにかかった時に使用されるインフルエンザの治療薬には、現在、飲み薬2種類(タミフル、ゾフルーザ)、吸入薬2種類(リレンザ、イナビル)、注射薬1種類(ラピアクタ)の5種類があります。お子さんの年齢や状態に応じて使い分けをしますが、これらの治療薬はインフルエンザウイルスの増殖を抑えることで、高熱や全身倦怠感などのつらい症状を1日～1.5日程度短くしてくれるお薬です。発熱から48時間以内に使用しないと十分な効果が得られませんので、抗原検査による診断のタイミングも大切です。

タミフルを飲むと、急に走り出したり、幻覚を見たりといった「異常行動」を起こすのではないかと心配されましたが、最近の米国の研究で**「異常行動」の原因は、薬ではなくインフルエンザの病気そのものにある可能性が高い**ことが報告されました。タミフルで治療した子どもは治療しなかった子どもと比較してけいれんや精神症状の発生の頻度が半分に減少していました。

タミフルはむしろ神経学的な合併症を予防してくれているということが示唆されたのです。

このことから、**インフルエンザでは薬の種類にかかわらず、発熱から少なくとも2日間は、保護者の方が目を離さずに様子を見守ってあげることが重要**だということです。

インフルエンザ抗原検査の限界

鼻の奥を綿棒で擦って調べるインフルエンザの抗原検査。インフルエンザの治療には欠かせない検査ですが、検査の限界についても知っておきましょう。

***迅速検査キットの感度は一般的に50～70%程度です。**

*検査のタイミングが結果を左右します。**発症から12時間以内だとウイルス量が少なく、陽性率が30～35%と感度が低下します。**

***検査で陽性と出た場合はほぼ間違いなくインフルエンザ**と診断できます。

***インフルエンザの診断は、抗原検査だけでなく症状や診察結果など総合的に判断**して行われます。

11月の感染症情報

11月に入った途端にA型インフルエンザが流行し始めました。11月の週毎の定点あたりの患者報告数は、3.5、17.7、23.0、43.5と大幅に増加し、直近では警報レベルになっています。その他の感染症はコロナを含め散発的な発生となっています。

１１月の利用状況

11月の利用延べ人数は130人、1日平均利用人数は7.2人でした。年齢別では、2歳児が24人で最も多く、次いで3歳児23人、7歳児19人の順でした。疾患としては、A型インフルエンザ(62人)と急性上気道炎(47人)が、ほぼ二分するような状況でした。

12月もしばらくはインフルエンザが猛威をふるうのではないかと思います。現行のワクチンは、新しい変異株「K亜型株」にも有効と報告されています。積極的なワクチン接種をお勧めします。

キッズケア青い鳥　☎52-7077